

命を守るためにできること

南木曾中学校

一年一組

ふるかやめ
古川夢

小学四、五、六年生の時に土砂災害につい

て学びました。山の上の方から、水と一緒に、

土や木、岩などが崩れてくることを学び、

もしまた自分の町で同じことが起きたら、

どうたらいいのたろうと思いい、土砂災害の作

文を書くことにしました。

土砂災害は、大雨や地震などがきっかけて

山やかけなとかくすれ、土や岩がいっきに崩

れてくる自然災害です。山の近くやかけの下

に住んでいる人は特に気をつけなければいけ

ません。日本は山が多い国なので、どこにで

ても起きる可能性があるそうです。

では、土砂災害から大切な命を守るために

はどうすればいいのしょうか。まず大切な

のはハザードマップを見ることです。自分の

家が危なくない場所にあるかどうかを、自前

に知っておくことで、いざという時にすばや

く安全なルートで避難することかできます。

実際に二〇十四年に梨子沢で起きた梨子沢土
石流は、その日の十五時から十八時の間での
降水量は百十二mmだそうです。そして午後五時四
十分頃、梨子沢で土石流が起きたそうです。こ
の土石流で一人の命がうばわれ、一名が重傷
者を負ったそうです。そして、家屋が四十三
棟被災し、約五百三十人が避難するという事
態になり、地域は大きな不安に包まれました。
そして、災害がいかにも突然起きるのか、早
めの避難がどれだけ大切かを改めて実感しま
した。私の住んでいる南木曽町にも山が多く、
工砂災害警戒区域に指定されている場所があ
ります。南木曽町には斜面が沢山あるので、
大雨が続くと「大丈夫かな」と不安になりま
す。災害について勉強する前まで私は、「自
分の住んでいる場所ではきつと何も起きない
から大丈夫」と思っていたから、災害につ
いて学んだ後は、そんな甘い考えではなく、
「災害はいつ、どこで起きるか分からないか
ら起きる前に、しっかり避難の準備や、非常

食を準備、避難経路を確認して、もし家族が別々の場所にいる時はどこに集合するか。など、災害にそなえておくことも大切なことだと思います。

では、私たちか工砂災害や自然災害から大切な命を守るに、何かできるのでしょうか。私は「備えること」「正しい情報を得ること」「早めに行動すること」の三つかとても大切なことだと思います。

まず、「備えること」です。これは、日頃から避難所や避難経路を確認しておくことや、家族と災害時の連絡方法について話しあっておくことです。また、防災リュックの中身を点検し、懐中電灯、飲み物、非常食などを人数分入れておくことが大切だと思います。災害が起きてから慌てるのではなく、「何も起きていない時に準備しておくこと」がとても重要だと思います。

次に「正しい情報を得ること」です。災害時は、テレビやスマートフォンなどの警報、自治体

の避難情報などを通じて情報を得ることか
ぎます。ただしSNSなどには誤った情報か
流れることもあるため、信頼できる情報源を
見極める力も必要です。防災について知識が
あると、「土砂災害警戒情報」「避難指示」
「警戒レベル」といった用語を理解ができ、
実際に災害が起きたときにも冷静に判断でき
るようになると思います。

そして最後に、「早めに行動すること」が
最も大切なことは考えます。土砂災害は、一
度起きてしまうと避難する時間はほとんど残
されていません。地面のひび割れ、木が傾く、
川の水が濁るという前ぶれを見逃さず、少し
でも不安を感じたら安全なところに避難する
勇気が必要です。日本では「避難観告」「避
難指示」などの情報が段階的に出されますが、
「また大丈夫だろう」と思っただけで動かない人が
多いと言われています。私は「自分の命を守
るためには一念のために避難する」くらいの
意識が大切だと思います。

土砂災害や、自然災害は、いつ、どこで起
きるか分かりません。そして、それは決して
他人事ではありません。だからこそ、私はこ
れからも家族や友達と一緒に災害への備えを
続けていきたいと思えます。そして、学校で
学んだことを活かして、地域の防災にも関心を
持って行動していきたいと思います。自分の命、そ
して大切な人やペットの命を守るために日頃
からできることを積み重ねていきたいと強く
感じています。